



特集：「ルクミー みらい保育スクール」の往還型「ドキュメンテーション活用」コース同窓会レポート
事例：ドキュメンテーション制作の負担への懸念も、いざはじめてみると楽しさが勝った ～鞍馬山保育園～
アンケート：満足度約96%! 同窓会アンケートに寄せられた声
コラム:ドキュメンテーションを気軽に始めるために

ルクミー主催「ルクミー みらい保育スクール」の往還型「ドキュメンテーション活用」コースを修了された先生方が集うオンライン同窓会を7月14日に行いました。

この同窓会は保育のデザイン研究所の川辺尚子先生をお招きし、研修に参加した各園の先生が各自ドキュメンテーションを実践してみてどうだったのか感想を語り合い振り返りを行う場です。ルクミーから取材も行った「鞍馬保育園」「光の子保育園」「かほる保育園」の3園の実践事例も写真たっぷりて共有いただきました。

冒頭、川辺先生が同窓会の参加者に「研修後、いかがでした?」と問うと、「毎日写真を撮っている」「週に1回以上ドキュメンテーションを作成している」と答えた参加者は7割以上にものぼりました。

今回のテーマは「ドキュメンテーションを継続させていくためのヒント」。研修が終わった後も学びが広がっていく同窓会の様子を、鞍馬山保育園さんの事例を中心に伝えたいと思います。

特集：「ルクミー みらい保育スクール」の往還型「ドキュメンテーション活用」コース同窓会レポート
事例：ドキュメンテーション制作の負担への懸念も、いざはじめてみると楽しさが勝った ～鞍馬山保育園～

鞍馬山保育園はドキュメンテーションを通じて「職員それぞれの視点を共有し同僚性を高める」「質の高い保育につながる意見交換をする」ことをねらいに研修に参加されました。

「研修受講→ルクミーフォトの活用→他メンバーの研修再受講・ルクミードキュメンテーションの活用」と段階を経て、園全体でICT活用にも少しずつ慣れていきました。写真が自動連携されるようになったことで、写真撮影や整理のハードルも下がり、今ではほぼ毎日写真撮影を活発に行っていると言います。

鞍馬山保育園でのドキュメンテーションステップ



【悩み】

業務の時間を短縮して、より子どもたちの保育について話し合う時間を増やし、理念に近づいていきたいのだが、どうすればよいのだろう……



保育をより豊かに
変えていく

ICT利用で
業務をスムーズに

往還型
ドキュメンテーション活用コース

子どもの視点
ドキュメンテーションを学ぶ

ルクミー
フォト

ルクミー
ドキュメンテーション

往還型
ドキュメンテーション活用コース

・デジタルカメラで写真を撮影した後、パソコンにデータを読み込みしていた

・視点の変化
・他の園さんのいろいろな取り組みの事例なども聞けたことが非常に良い刺激に

・写真撮影アプリの活用で写真データ整理の手間を省けた
・気軽に写真を撮る環境ができたため、子どもたちの細かな様子や表情に敏感に。より撮影へのモチベーションがUP!

・計6名の研修参加により「ドキュメンテーション」に関して共通の意識が醸成
・今後は「ルクミードキュメンテーション」でコメントのついた写真を職員間で共有することで、職員の考えをじっくりと話し合いたい

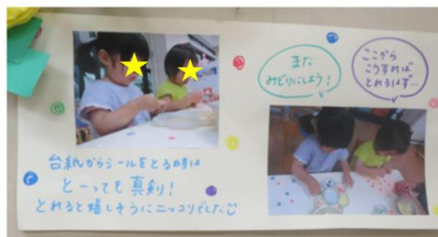
この日は鞍馬山保育園の高倉先生に「制作のドキュメンテーション」について発表いただきました。子どもたちの制作の掲示の下には3枚ほどの写真で、制作過程の様子や心情・会話が添えられ、いきいきと制作をしていた様子が伝わってきます。

製作での過程を知らせるドキュメンテーション



鞍馬山保育園 高倉先生

- 午睡中に、時間をかけすぎずに作成！
- 午睡から起きてきた子どもたちが、指さしをしたり、他のクラスの子どもたちも見ていた



ドキュメンテーション開始当初は「他の書類仕事もありながらドキュメンテーションまでできるのだろうか？」との不安もあったと言います。

しかしこのドキュメンテーションを作った日には「製作を実施した日のうちに保護者にどうしても見てもらいたかった」との思いから、他の先生に帳票の記入をお願いし、ドキュメンテーション作成に専念。高倉先生自身もやってみると大変さよりも楽しみながら作り上げることができたと振り返りました。今では他の先生と交代でドキュメンテーションを制作しているようです。

完成されたドキュメンテーションを見て、子どもたちも「ペタペタしたね」と大喜び。子ども達にとっても楽しい思い出としての振り返りになったとも……。

高倉先生はその様子を見て、「一緒にした経験が“見える”ことで、楽しい思い出に繋がっていく」と実感、「楽しんで保育園にも来てほしいから、こういった時間がたくさんできればなあと思います」と締めくくっていただきました。

川辺先生からも「先生同士で協力をして、自分達で時間を生み出す工夫がポイントですね」とコメント。川辺先生自身、かつては同僚の先生に「見てみて～」と自慢げに写真を見せながら、周りを巻き込んでいったと言います。

また前回お話していた「スモールステップでドキュメンテーションを始めていくこと」の重要性を改めて確認しました。ドキュメンテーションを作ることが大きな目的になってしまうと心理的ハードルも高くなってしまいうので、「写真を一枚撮る」「こまめにメモを残す」「職員会議の間にちょこっと共有する」ことから始め、「頻度を増やしていくことを目指しましょう」と伝えました。またルクミーの「ヒトコマ」機能も、写真一枚から簡単なメモが残せるのでおすすめですいただきました。



鞍馬山保育園で実際に作成されたヒトコマ

満足度約96%！同窓会アンケートに寄せられた声

同窓会終了後にはアンケートを実施し、約96%が「満足」いただけたとの回答に！
寄せられた学びや感想の一部をご紹介します。

気付き

「ドキュメンテーションを難しく考えず、簡単な写真から作っていき、それを積み重ねていくことが大切だと気づいた。」

「ドキュメンテーションを作るのに、しっかり伝わるように作らなきゃ！と思ってしまい形にこだわっていたんだなと考えさせられました。カタチや見せ方にこだわるのではなく、子どものための写真を掲示していこうと思います。」

「ドキュメンテーションで偏りがあることを改めて感じました。そのほかの子どもに視点が向いていないことに気づけたので今後活かしていきたいです。」

感想

「園ではドキュメンテーションを取り入れ実施してきたが、こなすだけになりつつあった。しかし、今回研修に参加させていただいて写真の意味や子ども達の気持ちを考え直すきっかけになっている。子どもを軸にしながら一人ひとりの遊びが意味のあるものにあるよう努めていきたい。」

「今回の研修をうけて、ドキュメンテーションを作成する時のハードルがさがった。これから15分くらいで作るのを目標に作成していきたい。」

「ドキュメンテーションというものへの視点をたくさん増やすことのできたとてもいい研修でした。ありがとうございました。」

グループワークで他園の先生との交流・対話も生まれ、同じドキュメンテーションを行う仲間づくりのお手伝いできていたら嬉しいです。

コラム：ドキュメンテーションを気軽にはじめるために

グループワーク終了後には参加者から「ドキュメンテーションを作成することで、“注目しやすい遊びをしている子に焦点がいきがちだと気づいた”“ある子には目が向いていないことが分かった”、偏りがあった」との振り返りの声が寄せられました。

それに対して川辺先生は「偏って良い」「偏りに気づく視点がとても素晴らしいと思います」と伝えました。「そう気づいた根っこには、子ども一人ひとりを大切にしようという想いがあるから」「この偏りをマイナスに捉えるのではなく、次なる視点へとポジティブに保育に活かしてほしい」とのこと。

そしてドキュメンテーションを継続して発展させていくための5つのポイントも伝授。

- ① 気負わない
- ② カタチや見せ方にこだわらない
- ③ 小さなものを習慣に
- ④ 子どもための写真を掲示しよう
- ⑤ 子どもの姿や保育の変化を喜び合う、「小さな」語りあいを

そして同窓会の最後に「小さいことの積み重ねはやがて大きな力になります。私も最初は写真を撮るのも精一杯だったところからスタートしています。」

志は大きく持って、できることと・やってみたいことを少しずつチャレンジし続けてください！」とエールを送りました。

毎回みなさんの成長が見られる研修と同窓会。

また新しいドキュメンテーション作りの保育仲間ができることをルクミーも楽しみにしています！

継続のためのポイント

まずは・・・

- 気負わない
- カタチや見せ方にこだわらない
- 小さいものを習慣に
- 子どもための写真を掲示
- 子どもの姿や保育の変化を喜び合う「小さな」語り合いを

小さいことの積み重ねは、やがて大きな力になります。志は大きく持ちつつ、できること、やってみたいことを少しずつチャレンジし続けてください。



【講師】川辺先生